

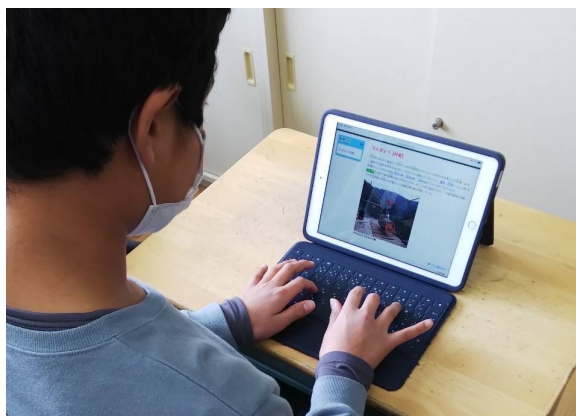


愛知県 こまき 小牧市教育委員会

eライブラリ×授業支援ソフトで、個別+協働学習 ～『学び合う学び』を推進するICTの活用～

『こども夢・チャレンジNo.1都市宣言』をし、子育て支援に力を入れている小牧市では「時代を切り拓くこども」を育成することを目的として、ICTを効果的に活用した教育を推進しています。今回はeライブラリと授業支援ソフトを使い、個別学習と学び合いを融合した授業をご紹介します。

「ニューワイド学習百科事典」で調べ学習 小牧小学校



▲ニューワイド学習百科事典で調べます

社会 5年：森林とともに生きる

社会の調べ学習では、eライブラリのオプションコンテンツである「ニューワイド学習百科事典」を利用しています。子どもたちは「林業」「間伐」等のキーワードを入力し、調べたことを授業支援ソフトにまとめ、先生に提出していました。

ニューワイド学習百科事典では、学習内容に沿った情報に絞って収集することができるため、**正しい知識を身に付けさせたいときはニューワイド学習百科事典、子どもたちの知見を広げたいときはインターネット**を使って調べるといように、学習場面によって使い分けています。

挑戦問題で子どものやる気を引き出す



▲挑戦問題を意欲的に取り組みます

教科書より難易度の高い問題を出題したいときに、eライブラリの挑戦問題を出題しています。

子どもたちは「100点を取れるまで頑張る!」「リトライなしで満点をとりたい」と、同じ問題を何度も繰り返し解いていきます。

挑戦問題を意欲的に取り組むことで、自然と反復学習ができ、学力の定着につながります。

継続的に挑戦問題を出題し、実施したことで、クラス全体のテストの平均点が上がりました。

インタビュー ふりかえり機能で子どものモチベーションを確認

子どもたちは挑戦問題を出題すると「絶対に解いてやる!」とやる気を出します。教科書の問題で物足りないときに、すぐに探し出して出題できるのも良さのひとつだと感じています。

上記のように、子どもの理解度に応じて、**授業の予習や復習でeライブラリを効果的に活用することで、学力の向上に結びつきます。**

また、授業のふりかえりでは、子どもたちがeライブラリのスタンプ機能を使うことで、**子どもの感情やモチベーションをすぐに確認することができます。**ふりかえり機能は学習目標と生活目標を設定できるため、今後は学級活動や朝学習でも取り入れていきたいと考えています。



学年主任
鈴木 博之 先生



▲ 確認テストから自動個別課題に取り組みます

数学 1年：方程式

この日の授業では、確認テストを実施後、そのテストの結果をもとに自動個別課題を出題しました。

確認テストでは黙々と問題を解いていた子どもたちでしたが、**自動個別課題が配信されると、それぞれ出題される教材数や内容が異なっている**ため「私は5個課題がある」「小学校の問題が出てる！」など、課題を見比べながら取り組んでいました。

クラス全体でわからない問題を確認



▲ 授業支援ソフトでクラスの疑問を共有します

問題を解く中で疑問に感じたことがあれば、授業支援ソフトに投稿し、クラス全体で共有します。投稿された質問に対して、課題が早く終わった子どもたちがアドバイスなどを返信しました。

グループで討論しながら和気あいあいと考えをまとめている姿が見られました。

つまり問題はそれぞれ違いますが、その疑問を共有することで、個別学習だけでなく、協働学習にも繋がっています。

インタビュー 課題作成の時間と負担を軽減できる

子どもたちのつまずきや復習が必要な課題は一人ひとり異なりますが、eライブラリの自動個別課題では**各自のつまずきを判断して、即時に課題を配信できるため、自分だけでは補いきれなかった個別課題作成の負担軽減になりました。**

また、クラスで学力が二極化していると、授業で両方の層をカバーすることが課題でしたが、グループワークを取り入れた結果、得意な子が苦手な子にアドバイスするなど、クラス全体を巻き込んだ授業を実現することができました。



情報担当
小竹 勇輝 先生

インタビュー 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を目指したICT活用



小牧市教育委員会
塚本 真也 主幹

小牧市では『学校教育ICT推進計画』を策定し、ICT教育の推進を図っています。ICTの活用を進める中で**「子どもの学びが深まっている」「今まで発表しなかった子どもたちの発言機会が増えた」といった、子どもたちの変化を感じています。**その子どもたちの変化に「積極的にICTを使っていこう！」という空気が生まれ、先生同士も学び合っています。

eライブラリは、**繰り返し学習したり苦手分野に取り組んだり、個々の状況に応じた自学自習を可能にしています。**また、**学年・教科を超えた課題の出題ができることも大変良いと感じています。**その良さを生かし**「指導の個別化」と「学習の個性化」の両面から、個別最適な学びの充実を図っていきたいと思います。**

今後は「積極的な活用」だけでなく「効果的な活用」を考えていかなければなりません。そのためにも、端末を使うかどうか、使う場合はどのアプリを使うか、さらには個別・協働どちらがよいか等、子ども自身が考え、選択できる力を付けさせたいと考えています。